

ワーキングプアに関する連合・連合総研共同調査研究報告書Ⅱ—分析編— ～困難な時代を生きる人々の仕事と生活の実態～

「働く貧困層（ワーキングプア）に関する調査研究委員会」

(主 査)	福原 宏幸	大阪市立大学大学院経済学研究科・教授
(委 員)	西田 芳正	大阪府立大学人間社会学部・准教授
	樋口 明彦	法政大学社会学部・准教授
	村上 英吾	日本大学経済学部・准教授
	吉中 季子	大阪体育大学健康福祉学部・講師
(オブザーバー)	西村 博史	労働調査協議会・主幹研究員

【肩書は研究委員会終了時】

連合総研では、ワーキングプアの実態を把握することを目的として、連合非正規労働センター・総合政策局と共同で、2009年1月に「働く貧困層（ワーキングプア）に関する調査研究委員会」（主査：福原宏幸大阪市立大学教授）を設置し、アンケート調査（「困難な時代を生きる人々の雇用と生活の実態調査」）および聞き取り調査を企画し、生活困難者等の支援を行っている労働組合、NPO等の全面的な協力を得て、2009年7月から12月にかけて双方の調査を実施した。

同委員会では、これらの調査研究成果を2冊の報告書にまとめた。1冊は、120人に及ぶ聞き取り調査対象者の生の声を集めたケースレポート集で、2010年6月に、「ワーキングプアに関する連合・連合総研共同調査研究報告書Ⅰ—ケースレポート編—」として刊行した。もう1冊は、本報告書「分析編」である。「分析編」は、研究委員会メンバーが聞き取り調査およびアンケート調査の結果についてそれぞれの視点から分析を行ったものである。

本調査研究を通じて、ワーキングプアの雇用が極めて不安定な状態にあり、かつ、それが固定化されていく様子が明らかとなった。また、雇用の不安定さは、貧困をもたらすだけでなく、家族、友人、企業組織、地域社会とのつながりの弱体化をもたらし、結果的に、彼らは社会的排除の状態におかれていることが明らかとなった。

目 次

◇はじめに

◇「ワーキングプアに関する連合・連合総研共同調査研究報告書Ⅱ—分析編—」について

◇総論 ワーキングプア調査によって何を明らかにするのか

—現代日本の新しいセーフティネット構想に向けて—

◇第1章 アンケート結果からみたワーキングプア像

◇第2章 ワーキングプアにおける不安定労働の現状と課題

◇第3章 失業を経験したワーキングプアの実態—2008年経済危機以降の動向

◇第4章 ワーキングプアの生活史と現在の生活—住居喪失経験者を中心に

◇第5章 母子世帯の母親の就労と生活の実態

◇第6章 社会保障諸制度とワーキングプア

◇第7章 ワーキングプアと労働組合、NPO—連合の取り組みをふまえて